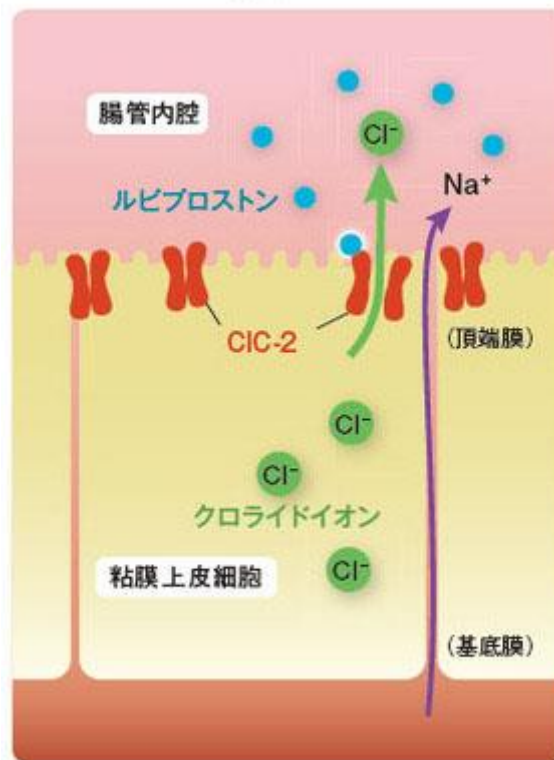


## 薬剤部 DI ニュース

## ルビプロストン(商品名:アミティーザ)について

最近、慢性便秘症の新薬としてルビプロストン(商品名アミティーザ)が発売となりました。ルビプロストンは、小腸粘膜上皮細胞に存在するタイプ-2 クロライドイオンチャンネル(CIC-2)に作用することで、腸管内への水分の分泌を促進し、便を軟らかくして排便を促します。従来から便秘の治療に使われている酸化マグネシウムが大腸内の浸透圧を高めて体内から水分を引き出し、便を軟らかくして排便を促すのと似ています。ただ酸化マグネシウムと違うのはルビプロストンが小腸に働くのに対して酸化マグネシウムは大腸に主に働く点異なります。



国内での重度の慢性便秘症の方(自発排便回数が1週間に平均3回未満の状態が6カ月以上持続し、器質性や二次性の便秘を除外した方)を対象に行った治験では、排便回数をほぼ毎日に改善することが示されました。さらに約1年間の長期第3相臨床試験では、長期間の投与で効果が減弱せず、**薬剤に対する耐性が生じにくい**ことが確認されています。



ルビプロストンには、便の硬さを理想的な状態にするという特徴もあります。ブリストル便形状スケールによる7段階で評価したところ、同薬の長期投与により、便の硬さが理想的な4(表面がなめらかで軟らかいソーセージ状、あるいは蛇のようなとぐろを巻く便)にほぼ近い、3.7~3.9を維持することが確認されています。

既存の便秘薬(特にセンナが主成分の排便を刺激する製剤:センノシド錠やアローゼン)では腹痛が生じやすいのが問題でしたが、ルビプロストンでは腹痛はほとんどなく、自然な排便を促がすのが特徴です。

ルビプロストンの主な副作用として、臨床試験では**下痢(30%)**や**悪心(23%)**が報告されていますが、これらの副作用は用量が多すぎることによって生じるもので減量すれば改善します。また、ルビプロストンは酸化マグネシウム製剤と違い、**血清電解質に影響を生じない**ことが確認されています。このことから**腎不全などにより酸化マグネシウムが使えない方に処方しやすい**お薬です。

ただしルビプロストンはまったく新しい機序の新薬で**薬価が高い(1錠161.1円)**ため、まずは薬価の低い既存の便秘薬(だいたい1錠数円程度)を使ってみた上で、既存薬で十分な効果が得られない方や腹痛などの副作用がある方に使用するのがいいかも知れません。

また、妊婦に対する安全性は評価されていないため妊娠している、又は妊娠の可能性のある女性には使いにくくなっています(もし使う場合は、妊娠の有無の検査をし、しかも服用中は避妊をする必要性があります)。

慢性便秘症の方は多いため、約32年ぶりに登場した新規便秘症治療薬は、患者さんの選択肢が増え、生活の質向上に貢献しそうです。この新しい便秘薬:ルビプロストン(アミティーザ)は当院でも採用されており、処方が可能です。

<薬剤部 吉村>